

第1回新唐津市民会館（仮称）管理運営計画検討委員会 会議概要

日時：令和5年6月30日（金）13：00～14：30

場所：唐津市役所4階 大会議室

・出席委員：14名（◎は委員長）

<学識経験>

- ◎五島 朋子：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 教授
竹田 英司：長崎県立大学地域創造学部実践経済学科 准教授

<有識者>

- 田島 龍太：唐津市文化財保護審議会 会長（欠）
坂口 安政：九州地区照明・音響・舞台事業者協会 相談役
深澤 功：公益財団法人九州交響楽団 元音楽主幹
納富 敏雄：公益財団法人佐賀県芸術文化協会 事務局長
糸山 裕子：福岡県立ももち文化センター 館長

<関係団体>

- 山根 路子：一般社団法人唐津観光協会 事務局長
吉田 和久：唐津商工会議所 事務局長
小形 昌和：公益財団法人唐津市文化事業団 事務局長
中山 忠幸：唐津曳山取締会 管理委員長
大西 康之：唐津曳山取締会 総務委員長
甲斐 信太郎：唐津地区小中音楽部会 教諭（欠）
北口 富子：唐津演劇集団「響」
田中 恵利子：ファミリーユバレエスタジオ 代表

<行政>

- 竹下 正博：佐賀県立名護屋城博物館 副館長

・事務局

唐津市 地域交流部 観光文化施設課

・傍聴者

3名

・協議資料：次第

座席表

資料1（委員名簿）

資料2（基本計画概要版）

資料3（利用計画）

資料4（管理運営計画検討委員会 設置要綱）

資料5（管理運営計画 構成案）

資料6（協議スケジュール案）

参考資料（基本計画）

・議事概要：以下のとおり

（1）委員長・委員長代理の選任

◎委員長選任

委員の互選により、五島委員を委員長として選出。

◎委員長代理選任

五島委員長の指名により。竹田委員を委員長代理として選出

（2）質疑・意見（これまでの経緯）

●事務局

- ・（資料2により、基本計画について説明）
- ・（基本設計について説明）
- ・（資料3により、利用計画について説明）

○竹田委員

- ・資料3、P19に新唐津市民会館（仮称）の目標稼働率が55%とあるが、P26に30年度計の利用率は35.8%となっている。新しく建てただけで利用率が20ポイント増えるというなら見通しが甘い。利用率が20ポイント上げられる根拠をお示しいただきたい。

●事務局

- ・以前の市民会館は老朽化し、そのスペックの中で情報発信ができていらず、広報も含めて市民に使ってもらい取り組みができてなかった。今回施設を新しくすることで料金設定等も市民が使いやすい形にしたい。これまで金額や設備の面で使えなかった市民団体にも使ってもらえるようになると考えている。P28に稼働目標日数が記載されているが、貸館事業が180日、自主事業で20日を見込んでいる。

○五島委員長

- ・今まで老朽化して使えなかったという部分もあると思う。ただし新しくしただけでは何も変わらないかもしれないので、利用者を増やしていく工夫はしていかなければならない。

○納富委員

- ・佐賀市文化会館と東与賀文化ホールの管理運営を評価する第三者評価委員会に参画している。評価にあたり様々な情報が示されるが、最終的に数値目標を達成できたかどうかで評価される。数字が先にいってしまうと、それを達成しようとして、有名人を呼び満席になり、稼働率が高まったということが、運営の目的としてすり替わってしまい、市民のためのホールという基本を忘れてしまう可能性がある。
- ・市民のために、コストを抑えていいものという観点で言えば、都城市総合文化ホールなど11のホールが連携して、海外から交響楽団やバレエを招聘したりしている。経費を一つの会館だけで賄うのではなく、お互いに協力して分担することで、市民にも質の高い文化を発信できるし、それをきっかけに体験した子どもたちにも高い目標を持ってもらえることにつながると思う。唐津市だけで考えるのではなく、九州を一つの大きな圏域と捉え、文化芸術施設の連携の考え方があるかをお伺いしたい。

○五島委員長

- ・今、おっしゃったことは、自主事業をやっていく中で必要なことと思う。九州は公立文化施設間のネットワークがいい印象があるので、利用計画を考えていく中で今の考えを取り入れていければと思う。

●事務局

- ・利用計画のP20に掲載したが九州類似ホール連絡交換会という会があり、今度オブザーバーで参加させてほしいと申し出を行っている。今おっしゃったことと同じイメージは持っており、九州のホールに仲間入りしたいと考えている。

(3) 質疑・意見 (議題①)

●事務局

- ・(資料4説明)
→質疑なし

(4) 質疑・意見 (議題②、③)

●事務局

- ・(資料5、6説明)

○糸山委員

- ・開館までのスケジュールは利用計画のP23に掲載のものと捉えてよいか。

●事務局

- ・現時点ではP23に書いてある通りのスケジュールと考えている。

○竹田委員

- ・基本計画の P11 に大ホールの客席占有率が示されている。77 件の大ホール利用のうち、600 席以下の利用が 48 件となっている。これをパーセンテージで示すと 62%となる。1000 席ある大ホールで、600 席以下の利用が 62%を占めていたという結果である。この 62%について、専門外なので高いか低いかの見方はわからないが、新唐津市民会館（仮称）の大ホール利用で 100%を目指すのか。70%を目指すのか。新唐津市民会館（仮称）大ホールの座席数構想をお示しいただきたい。

○五島委員長

- ・私から答えさせていただく。示されたパーセンテージが高くないのは明らか。新しい会館は 800 席強になっており、市民が使いやすい規模感にするという話だったと思う。座席がどれだけ埋まっているかは舞台上で何をしているかにリンクしている。100%座席が埋まるものだけをするのが市民会館かどうか、一概に客席が 100%埋まることが目指すべき状態とは言えず、地域の特色や市民の皆様が何を求めているのかを考え、何をやっていくのかにより変わる。
- ・稼働率は席の埋まり具合ではなくどれだけ利用されているかを示している。公立文化施設の全国的な平均では 6 割程度となっている。その中で唐津では 5 割強程度の利用率を目指している、というのが現在の計画ということになる。

○竹田委員

- ・今のご説明で 1000 席だと埋まらないので 800 席にするという考えなのがわかった。

○五島委員長

- ・1000 席以上で使う催しは非常に限られている。
興行的に収支をあわせるにはもっと座席数が必要となる。そういったものではない市民会館でどう捉えていくかということ、これまでの使い勝手やこれからのことを考え、市民が使いやすく、そこから育っていく適切な規模のホールという議論があったと思う。世の中には 2000 館を超える公立文化施設があるが、ホール規模も様々で、行っている事業内容も違うので、唐津らしいものを目指すと言うことだと思う。

○深澤委員

- ・施設計画の中でリハーサル室について、資料 2 に「様々な利用ができる」とあるが、多目的な利用ということコンサートなど行える小ホールの利用も想定しているのか。

●事務局

- ・現在施設の内部の検証を進めているが、リハーサルに限らず、小ホールとして催し物や小規模な発表会や日常的な練習や会議など、多用途に利用できることを考えている。

○五島委員長

- ・小さな演奏会なども開催できるイメージか。

●事務局

- ・そう言ったこともできるイメージを持っている。

○竹下委員

- ・唐津市内に他にホール施設があるが、棲み分けは考えているのか

●事務局

- ・新施設は規模的に一番大きなホールになるので、こちらが中核施設となり、例えば市民会館の催しを他のホールでリモート視聴できるなどの連携はできればと考えている。

○竹下委員

- ・佐賀県立美術館のホールは、昭和 58 年のオープン当時に 500 席程度のホールが佐賀市内に欲しいということで強い要望があり、美術館のホールとしてはオーバースペックなものになっている。同じように名護屋城博物館も 500 席程度あり、オーバースペックで稼働率が低いままということがある。席数や地域性あるいは利用のお客様にあった計画をしていくことは大事かと思う。
- ・名護屋城博物館ホールはオープンから 30 年経ち施設的に古くなっている。唐津に大きなホールができるとなると、名護屋城ホールはリニューアルして性格を変えるという選択肢もありうるかと思う。他のホールと情報共有、交換しながら考えていけると、他のホールとも良い関係が築けるのではないか。
- ・もう一つ、今回の管理運営計画は、ホールも曳山展示場も含めての計画になっている。ホールと展示場の両方について、この会議の中で、使い方などを決めていくことになると思うので、できるだけ早く情報を共有してほしい。

●事務局

- ・建物の形が定まっていなかったことから、展示設計の協議が昨年度の状態で止まっている状態となっている。近く展示設計の検討を再開するので、共用部の展示や曳山展示場の展示、体験展示などの検討状況も共有させていただく。

○五島委員長

- ・市民会館と曳山展示場と共用部があるので、そこをどう運営していくかで複合化された意味が大きくなる。個人的にそこの議論は大事だと思っている。

○北口委員

- ・駐車場はどれだけ予定しているか。文化体育館のホールが400人程度のキャパシティだが駐車場には苦勞されている。

●事務局

- ・基本計画では旧市民会館の専用が78台あった。現在の計画では120台程度は確保できると考えている。他は近隣の駐車場を含め必要台数は確保していきたい。

○五島委員長

- ・敷地条件が厳しいので周りの駐車場を利用しながらになる。

○竹田委員

- ・駐車場は大切。インターネットで検索したところ、旧市民会館の駐車場が少ないと炎上していた。800席に対しての適当な台数が120台なのか。その根拠はあるのか。

●事務局

- ・敷地条件が厳しいので、120台で充足しているとは捉えていないが、旧市民会館より増やすことで検討を進めている。足りないとは思いますが、公共交通機関を利用していただくこと、また近隣の駐車場をあわせると300～400台程度は確保できると考えている。近隣の駐車場も合わせて台数を確保していきたい。

○竹田委員

- ・パブリックコメントを行うのならば、駐車場については意見を寄せられると思う。今言ったことを考え方として示していただけると、市民の方々も落ち着くと思う。

○五島委員長

- ・市民の皆様に向けた説明会も予定しているそうなので、先んじてそういった説明をしていただくとよいと思う。